

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104224		
法人名	社会福祉法人 夢の会		
事業所名	グループホーム王司		
所在地	下関市王司川端1丁目4番56-2		
自己評価作成日	令和3年12月21日	評価結果市町受理日	令和4年8月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年1月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム王司の理念でもある、地域の中で、我が家のように笑顔いっぱい、仲良く充実した生活を送れるグループホームを目指し、支援しています。  
日々の生活の中で、職員と一緒に洗濯たたみ、干し、掃除、食事の盛り付けといった一人ひとりの出来る事、役割を持って生活して頂き、充実した生活を送れるように支援しています。  
また、全員がレクリエーションに参加できるように支援を行い、誕生日会や、季節の行事を職員と一緒に全員で楽しんで頂き、笑顔いっぱい仲良く過ごして頂けるよう支援しています。  
現在はコロナ禍の為、外出は控えておりますが、自治会の行事参加や、地域の観光スポットへ外出したりと、地域の中で、楽しく暮らして頂けるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日常介護の場での利用者の言動や表情を「24時間生活変化シート」に記録して利用者の思いを把握するように努めておられ、利用者に不穏がある場合はその前後の行動や対応を振り返りその要因を探っておられます。困難な場合も記録をもとに職員間で話し合わせ、家族にも相談して本人本位に検討しておられます。管理者は、新設の事業所として職員間の信頼関係の構築に取り組んでこられ、利用者も職員もいっしょに楽しく過ごせる事業所を目指しておられます。職員会議や日常業務のなかで話し合い、利用者の安全な入浴のための浴室のシャワーチェアの設定、利用者の楽しみや環境のためのメダカの飼育、庭に花壇を作り花やトマトを栽培し季節を感じる工夫をされる等、職員の意見や提案に耳を傾け運営に反映させておられます。コロナ禍にあって、室内でのレクリエーションで利用者の笑顔が見られるように工夫され、たこ焼きパーティー、おにぎり作り、誕生日会のプレゼントとメッセージカード、敬老の日の握り寿司の出前、季節の壁面飾り作り、職員と一緒にする家事や園芸など、利用者の活躍の場を作り、張り合いや喜びのある毎日を過ごせるように支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、笑顔いっぱい過ごせるグループホームを目指す理念を職員全員で作成し、事業所に掲示している。また、理念の研修を行い、理念についての意義を確認している。	10か月前に事業所開設後、職員間で話し合っって地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念「地域の中で、我が家のように、笑顔いっぱい仲良く充実した生活を送れる、グループホーム」をつくり事業所内に掲示している。内部研修で年1回、「理念の共有と実践について」について研修し職員間で話し合っって実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加している。現在はコロナ禍で参加は出来ないが、地域への行事も参加し、繋がりを保てるようにしている。	自治会に加入し、コロナ禍で地域の行事への参加は控えている。来訪する自治会長から年度当初に行事予定を受け取ったり、地域の情報を得ている。月1回訪問内容を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、事業所の活動や報告を行い、意見交換しながら地域の方々に認知症の理解や支援方法を伝えている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を説明し、理解した上で、全職員が自己評価を行っている。評価を通じて、日々の支援を振り返り、具体的な改善に活かしている。	管理者が、職員会議で評価の意義を説明し、自己評価のための書類を全職員に配布して記入してもらい管理者がまとめている。ガイド集はいつでも閲覧できるようにしており評価の項目の理解を深めるように取り組んでいる。職員は、自己評価を業務の振り返りの機会と捉えている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。現在はコロナ禍の為、書面にて事業所状況(利用者情報、事故報告等)を報告しており、電話で意見を伺っている。	会議は2か月に1回書面での開催としている。入居者の状況、事故報告、行事報告と予定、研修報告、等を報告して電話により意見を求めているが、サービス向上に活かす意見は出ていない。メンバーは自治会長と東部地域包括支援センター職員、管理者の3名となっており、増員が課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、メールや電話、FAXで情報共有を行い、助言を得ている。また、地域包括センター職員とは、運営推進会議にて情報交換を行い、連携を図っている。	市の担当者とは、電話やメール、FAX、事故報告や会議保険更新時等に直接出向いて協力関係を築くように努めている。包括支援センター職員とは、電話や運営推進会議資料手渡し時に利用者の状況や事業所の情報などを情報交換し連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、拘束しないケアの理解を深め、抑制のないケアに取り組めるよう研修を行っている。玄関の施錠は安全上行うが、利用者の希望に応じて、職員と一緒にしたりして気分転換を図っている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づいて、3か月毎に「身体的拘束適正化委員会」を開催し研修を実施している。職員は内部研修で身体拘束について学んで理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、職員がいっしょに出かけ周辺を歩いている。スピーチロックについては、管理者が指導し、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、内部研修をおこなっている。理解を深め、虐待が行われないよう防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、内部研修を行い理解を深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項及び契約内容を丁寧に説明を行い、不安や疑問がある際には、納得していただくまで説明している。契約解除時も、納得いただくまで十分な話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情相談体制の説明を行っている。月1回事業所便りを送付し、意見しやすい関係作りに努め、電話や面会時に、意見や要望を聞くようにしており、その都度、ケアに反映させている。	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きを利用者や家族に説明している。電話や面会時、月1回事業所だより送付時に意見や要望を聞いている。出た意見や要望は「申し送りノート」に記録している。服薬に関しての質問などケアに関しての要望はその都度適切に対応しているが、運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、職員ミーティング時に意見や提案を聞く機会を設けている。意見や要望は職員全員で検討し、反映させている。	管理者は、月1回の職員会議時に意見や提案を聞く聴きを設けているほか、日常業務のなかでも聞いている。職員が自由に意見や提案ができるような雰囲気づくりに心がけ、職員間での信頼関係の構築に取り組んでいる。利用者の安全な入浴のための浴室のシャワーチェアの設置、利用者の楽しみごとのためのメダカの飼育、庭に花壇を設置する等、意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格習得に向けた支援や、給与や労働時間の改善を行い、向上心が持てるような環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、年間研修計画を立て、毎月職員会議にて研修を行っている。 法人研修は、IXEEDO受講講座が社内携帯にて配信されており、毎月確認試験を行っている。 外部研修は、外部から送られてくる研修案内を職員に伝え、参加の機会を提供している。	外部研修は、職員に情報を伝え希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修は、職員各自のケータイに配信され、高齢者虐待と身体拘束や介護保険制度、認知症、救命救急、接遇マナーなどについて職員が学んでいる。内部研修は、年間計画に沿って月1回実施し、テーマは、理念の共有、応急処置、食中毒、感染症、熱中症、看取り、ノロウイルス、権利擁護、等についてをテーマとし、管理者が講師となって実施している。参加できなかった職員には、研修資料を手渡している。新任研修は、入社時に新人研修資料を熟読し、日常業務のなかで先輩職員の指導のもとに現場で働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍の為、交流の機会がないが、グループホーム協会の研修に参加し、情報交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、本人から困っている事、不安な事をしっかり傾聴し安心して頂くよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の思いをしっかり受け止め、要望や不安な点を聞きながら安心して頂くことで、信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族としっかり関わりを持ち、環境が変わる中、その時点で何が必要かを見極め、出来る限りの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位にならず、家事等の出来る事を、本人の思いに寄り添いながら一緒に行い、暮らしを共にする関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回事業所便りを送り、近況をお伝えしている。また、面会時や電話で体調面やご様子もお伝えし、ともに支えていく関係性を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為、面会制限を設けているが、家族や知人が来られた際には居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。また、年賀状を一緒に作って関係が途切れないよう支援に努めている。	家族の面会や親せきの来訪がある。年賀状やはがき、暑中見舞い、手紙、電話の取次ぎの支援をしているなど、馴染みの人の関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごして頂き、食事やレクリエーションを一緒に行っている。時には職員が間に入り、孤立やトラブルにならないように声掛けし、利用者同士が安心して関わり合える環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族から相談を受け、必要に応じて関係者と連携を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、アセスメントシートや家族殻の情報を元に生活歴や本人の状況について把握に努めている。また、24時間シートに本人の言葉や思いを記録し、職員間で共有し、困難な場合は記録を元に職員間での話し合いや家族へ相談を行い、本人本位に検討している。	入居時のアセスメントシートを活用する他、日常介護の場で本人が言ったことや行動、表情を「24時間生活変化シート」に記録し、思いを把握するように努めている。利用者の不穏がある場合は、その前後の行動や対応を振り返りその要因を職員間で話し合っ探っている。困難な場合は記録をもとに職員間で話し合ったり家族に相談して本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや家族からの情報を元に、生活環境の把握に努めている。また、本人との会話の中でも生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルや食事量、排泄状況チェックを行い、日々のケアの中で一緒に出来る事を見つけていき、職員間で共有し、一人ひとりの心身の状態や、有する力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファレンスを行い、本人や家族の思いを参考に、職員間で必要なケアや課題について話し合い、ケアプランに反映させている。また、毎月モニタリングを行い、6ヶ月、保険更新時に見直しを行っている。	計画作成担当者が中心となって月1回職員会議に併せてカンファレンスを行っている。本人、家族の意向を確認し、医師や訪問看護師の意見を参考に介護計画を作成している。1か月毎にモニタリングをし、6か月毎に計画の見直しを行っている。状況に変化が生じた場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に24時間シートに記録している。毎日申し送りを行い、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身状態に応じて、往診以外での受診支援を行い、柔軟な支援に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ加入し、地域の方々から助言や協力を頂き、地域資源を把握し、地域行事への参加といった地域の中で、豊かに暮らしていけるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に了解を得た上で、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。往診時には心身状態を報告し、主治医からの指示や助言を記録し、職員や家族へ共有できるようにし、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある。他科受診は事業所が支援しているが家族の協力を得ている場合もある。受診結果は家族には電話や書面で伝え、職員には「申し送りノート」に記録して伝えている。休日や夜間の緊急時には、主治医と連携し適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、定期的な看護師の訪問があり、心身状態をお伝えし、専門的な助言や処置をして頂き、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者と情報交換を行い、入院中も密に連携をとり、家族との相談を行いながら、早期退院出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を契約時に説明し、事業所で出来る対応について同時を得ている。実際に重度化した場合は、主治医、看護師、家族と話し合いをし、方針を決めている。	契約時に、「看取り(重症化した場合)に関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について本人と家族に説明し同意を得ている。実際に重症化した場合は、家族の意向を確認し主治医や訪問看護師の意見を聞いて早めに方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書を作成し報告、対応策を検討して、全職員へ回覧を行っている。また、応急処置法の内部研修を行い、事故対応への取り組みを行っている。	事例が発生した場合は、その場の職員が「ヒヤリ・ハット報告書」に状況や対応原因等を記入し、全職員に回覧するとともに申し送り時に報告している。応急処置方法(止血、骨折、捻挫、心肺蘇生法)や感染症(ノロウイルス、インフルエンザ)熱中症、食中毒等をテーマに、管理者を講師として内部研修を実施しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定での避難訓練にて、消火訓練、通報訓練、避難誘導訓練を行っている。また、自治会と、避難場所の確認を行っている。	開設後1回、夜間火災を想定した消火、通報、避難誘導訓練を利用者も参加して実施している。管理者は、事業所の開設前に自治会長と協議の場を設け避難場所の確認をしているが、地域との協力体制については今後の課題である。	・災害時における地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修にて接遇マナーやコンプライアンスについて学び、尊厳や、人格を損ねない言葉かけを心掛けている。	職員は、法人研修や内部研修で、介護における接遇マナーやコンプライアンスについて学び、利用者には人生の先輩として尊敬の念をもって接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応があれば、管理者が指導したり職員同志で注意しあっている。記録物等個人情報の取り扱いに留意し守秘義務を遵守している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重出来るよう、一人ひとりに合った声掛けを行い、表情や行動から思いを汲み取り、自己決定出来るような環境作りに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や時間を優先せず、その日の心身の状態に応じて臨機応変に対応し、本人の希望に沿って支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容が月1回あり、本人の希望に応じて、カット、カラーをされている。また、衣替えを職員と一緒にしたり、季節に応じた服装の声掛けを行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の旨楽庵より、食材の配送があり、利用者と一緒に協力して、盛り付けや片付けを行い食事の用意をしている。また、行事で季節食やおやつ等、食事が楽しめる支援を行っている。	食事は三食とも法人の配食を利用している。ご飯と汁物は事業所で作っている。利用者の状況によって、きざみ食やとろみ食、で対応している。利用者は職員といっしょに盛りつけ、片付け、箸配り、台ふき、下膳、等できることをしている。季節の行事食(おせち、節句の寿司)、おやつ作り(どら焼き、たこ焼き)たこ焼きパーティー、おにぎり作り、誕生日会の手作りケーキ、敬老の日の握り寿司の出前等、食事に変化を持たせ、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、刻み等の個別対応をしている。食事摂取量を記録し、状況を把握できるようにしている。水分補給はこまめに、水分の提供、声掛けを行い支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、行うようにしている。義歯や歯ブラシ、コップが不衛生にならないよう、定期的な漂白を行い清潔を保持している。また、法人の訪問歯科による口腔管理の助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートや健康チェック表に排泄状況を記録し、パターンを把握し、声掛けを行っている。羞恥心への配慮を忘れず、誘導時や失敗時の声掛けには十分注意して、自立支援を行っている。	「24時間生活変化シート」や「健康チェック表」から排泄パターンを把握し、その人に会った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間シートや健康チェック表に排便状況を記録し、看護師や主治医へ報告し、指示を受けている。また、適度な運動やヨーグルトの提供をしたり、自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の心身状態に応じて、入浴、足浴、清拭を行い、無理強いすることなく清潔を保てるよう支援している。	入浴の時間は、14時から15時30分までとしているが希望すればいつでも入浴できる。利用者は職員と会話しながらゆっくり入浴を楽しんでいる。利用者の体調によって清拭、シャワー用、足浴、部分浴等個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態に応じて、いつでも居室で休めるよう支援している。また、室内空調や照明を出来る限り本人の希望に応じて調整し、安心して、眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬状況を把握出来るように、服薬情報をファイルにして閲覧出来るようにしている。処方変更の際は、申し送りで情報を共有し、変化があった際は記録をし、主治医や薬剤師に報告し、助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のケアの中で、趣味や出来る事を把握し、家事手伝いやレクリエーションなど一人ひとり出来る事をして頂いている。また、季節のイベントや誕生日会など全員が楽しめるよう支援している。	季節の花植え、水やり、居室の掃除、雑巾がけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お盆拭き、箸配り、台ふき、下膳、盛付け、おにぎり作り、歌を歌う、テレビ視聴、脳トレ体操、タオル体操、筋カトレーニング、立ち上がり体操、ラジオ体操、歌体操、棒体操。風船バレー、ボール送りゲーム、紙コップリレー、漢字ドリル、計算ドリル、しりとり、ことわざ遊び、ぬり絵、折り紙、カルタ、絵合わせ、おはじき取り、季節の壁面かざり作り、たこ焼きパーティー、全員でのおにぎり作り、クリスマス会、誕生日会のケーキ作りとメッセージカード、プレゼント等、利用者一人ひとりの活躍できる場面を作り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、外出支援は中止させて頂いているが、庭で園芸をして、季節を感じれるよう支援している。	事業所周辺の散歩をする他、庭の花壇で花やトマトを育てて外気に触れることで気分転換を図り、季節の移ろいを感じられるようにしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により所持の場合は、事業所にて預り金として対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、家族や知人に電話出来るように対応している。手紙も本人の希望があれば、出せるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、空調管理を常に行い、季節を感じて頂けるよう、季節のお花や飾りを飾っている。リビングにソファを設置し、いつでもくつろげるような環境作りに努め、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	玄関や居間に季節の花を活けたり、壁に利用者や職員がいっしょに作った季節のぬり絵作品(節分の鬼)を飾っている。台所からご飯の炊ける匂いやみそ汁の匂いがして生活を感じることができる。ソファを置き、気の合ったもの同士で過ごしたり、一人でゆったりできるように居場所づくりをしている。温度、湿度、換気に留意し居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、テレビが見えるソファを設置しており、気の合った方と過ごしたり、独りでゆったり出来るような居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのある物をお持ちいただき、使用して頂く事により、居心地よく、安心して過ごせるようにしている。また、居室に思い出の写真やカレンダーなどを飾り、落ち着いて生活して頂けるよう努めている。	ベッドや掛布団、枕、カラーボックス、衣装ケース、マイバッグ、ぬいぐるみ、思い出の写真、整髪用品、化粧品、メガネ、衣類、など使い慣れたものや好みのものを持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、リビング、トイレ、浴室に手すりを設置し、安全に生活出来るよう工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム王司

作成日: 令和 4 年 7 月 31 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の研修を実施しているが、全ての職員が実践力を身につけているとはいえない。	応急手当や初期対応の訓練を実施し、全職員が参加する事により、実践力を身に付ける事が出来る。	内部研修にて、定期的に訓練を実施する。継続して行う事で、全職員が参加でき、実践力を身に付けて頂く。	12ヶ月
2	36	地域との協力体制	災害時における地域との協力体制の構築	運営推進会議を活用し、避難訓練の参加促しや、災害時の対策の検討を定期的に行い、協力が得られるように取り組む。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。